

産業構造審議会イノベーション・環境分科会資源循環経済小委員会
容器包装リサイクルワーキンググループ（第2回）

議事要旨

開催概要

日時：令和6年9月26日（木）14時30分～15時10分

場所：オンライン開催

出席者（敬称略、委員は50音順）

齊藤座長、足立委員、池田委員、稲林委員、大下委員代理（オブザーバー参加）、大角委員、小野田委員、織委員、金澤委員、川村委員、小山委員、笹尾委員、佐藤委員代理（オブザーバー参加）、篠木委員、高橋委員、田中委員、田辺委員、玉谷委員、野中委員、根村委員、舟竹委員、増田委員、町野委員、森塚委員代理（オブザーバー参加）

議題

容器包装リサイクル法の再商品化義務量算定に係る量、比率等について

議事要旨

◇ 開会

- 新たに就任された委員6名（池田委員、稲林委員、田辺委員、野中委員、根村委員、増田委員）よりご挨拶をいただいた

◇ 議事

容器包装リサイクル法の再商品化義務量算定に係る量、比率等について資料2を用いて、昨年度からの更新点を含めた説明がなされた。

説明を受け、以下議論が行われた。

- ガラスびんのその他の色について自主算定方式及び簡易算定方式で算定係数を試算したところ、自主算定方式では全業種、簡易算定方式では4業種において1を超過する結果となった。算定係数が1を超過することは特定利用事業者の容器包装廃棄物の排出見込量よりも再商品化義務量が多くなることであり、容器包装リサイクル制度の主旨にそぐわないのではないか。（田中委員）
 - 算定係数が1を超えることは事務局も確認している。今後、引き受け量の増加要因のひとつとして、ガラスびんのその他の色の排出量が増加することが考えられる。今回いただいたご指摘事項は、次回の再商品化計画更新時に考慮すべき点として受けている。（岡田課長補佐）

- 昨年度より、分別収集見込総量から市町村独自処理予定量を差し引いた形になり、一昨年よりも算定係数1を超える状況が緩和された。しかし来年度には再商品化見込量が更新されるのではないかと思料しており、調査時には色ごとの比率を加味した上で妥当性を確認いただきたいと要望する。(田中委員)
- ガラスびんの出荷量に対する色別の構成比と分別収集見込総量の構成比を比較すると、その他の色では17ポイント程度、分別収集見込総量が多い結果となっている。色選別の精度が原因のひとつとして考えられることから、自治体による色選別精度の向上に向けた取組の実施も併せて要望したい。(田中委員)
 - ガラスびんについては、消費者が分別しても収集及び選別段階で無色や茶色がその他の色に混入することがあると指摘されている。引き取りびんの品質の担保やリサイクルの質の向上に向けて、公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会と問題意識を共有している。今後も再商品化事業者と共に、自治体での選別過程における破碎の防止や色別分別収集への協力を求める取組を推進したい。(岡田課長補佐)

問合せ先

経済産業省 イノベーション・環境局 GXグループ 資源循環経済課

電話：03-3501-4978